



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年
No.6
事例2

疑義照会

副作用の発現



事例

【事例の内容】

患者は90歳代で、1か月ほど前から意識消失を起こすようになった。往診時、医師が血液検査を行った。薬剤師が血液検査の結果を確認したところカルシウム値は正常値であったが、アルブミンの値が低かったため、補正カルシウム濃度を計算すると、 12.9mg/dL となり基準値を超えていた。カルシウム値を上昇させる可能性のある薬剤の服用の有無を確認すると、他の診療科からL-アスパラギン酸Ca錠200mg「サワイ」とエディロールカプセル0.75 μg が処方されていた。往診医に伝えたところ、これら2種類の薬剤が中止となった。

【背景・要因】

患者に複数の診療科から薬剤が処方されていた。

【薬局が考えた改善策】

薬剤師も血液検査の結果を確認する。特に、多剤併用している患者の場合は、他の診療科の処方薬も含め、服用している全ての薬剤の副作用の可能性を検討する。



その他の情報

L-アスパラギン酸Ca錠200mg「サワイ」の添付文書（一部抜粋）

【使用上の注意】

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
 - 1) 活性型ビタミンD製剤を投与中の患者（高カルシウム血症があらわれやすい。）
- 重要な基本的注意

長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中又は尿中カルシウムを検査することが望ましい。また、高カルシウム血症があらわれた場合には投与を中止すること。

エディロールカプセル0.5 μg /0.75 μg の添付文書（一部抜粋）

- 重要な基本的注意
 - 8.1 本剤投与中は血清カルシウム値を定期的（3～6カ月に1回程度）に測定し、異常が認められた場合には直ちに休業し、適切な処置を行うこと。
 10. 相互作用
 - 10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カルシウム製剤 乳酸カルシウム 炭酸カルシウム等	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	本剤は腸管でのカルシウムの吸収を促進させる。



事例のポイント

- 薬剤による副作用の防止や早期発見のためには、患者から収集した情報だけでなく検査値に基づいた処方監査を行うことが重要である。
- 薬剤師は、患者の病態や薬物治療と検査値との関連性を理解する必要がある。処方箋に検査値が記載されていない場合でも、積極的に検査値を入手することが望ましい。
- 高カルシウム血症が疑われる際は、医療用医薬品だけではなくカルシウムやビタミンを含有するサプリメントの摂取の有無も確認するとよい。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。